

Iを企業の生産性向上に生かすための方策などについて語った。その中で、「AIはコスト改革だけではなく、クリエイティビティ（創造性）にも寄与する」との考えを示した。

（詳報2面）

1時間で1000案のデザインをつくり、評価する「パッケージデザインAI」が、第4回日本サービス大賞の「総務大臣賞」を受賞したプラグ（東京都千代田区）の小川亮・代表取締役社長は、「実践『生産性改革』」のインタビューに応じ、A

AIはマーケターの創造性を刺激する

たデザインは、時に突拍子のないものを描き出す。例えば、カップ麺に3本のフォークが絡まっているデザインなど、人が全く思いつかないようなデザインが生成されることで、そこから新しいアイデアの創出につながる。「AIは参加者の創造性を刺激してくれる存在だ」（小川氏）。



プラグ代表取締役社長

小川亮氏

実践 生産性改革

システムで、従来のデザイン開発の時間とコストを大幅に短縮する世界初のサービスだ。

プラグが開発した商品デザイン評価・生成サービス「パッケージデザインAI」は、1020万人の消費者調査の結果を学習データに使い、東京大学と共同研究したAIを繰り返し、1時間で1000案のデザインをつくり、評価する「パッケージデザインAI」が、第4回日本サービス大賞の「総務大臣賞」を受賞したプラグ（東京都千代田区）の小川亮・代表取締役社長は、「実践『生産性改革』」のインタビューに応じ、AIを企業の生産性向上に生かすための方策などについて語った。その中で、「AIはコスト改革だけではなく、クリエイティビティ（創造性）にも寄与する」との考えを示した。

パッケージデザインのプロセス改革

000のデザイン案を作成のサービスを開発し出す。新商品、リニューアル商品の売上アップや、商品開発に携わる商

成のサービスを開発し出す。新商品、リニューアル商品の売上アップや、商品開発に携わる商

品開発担当者やブランドマネジャー、デザイナーの業務効率化といったメリットを創出する。小川氏は「これまでのAIの生産性向上への活用は、どちらかというとコストダウンの実現が注目されがちだったが、生成AIなどの新しい技術の登場で、人間の創造性を刺激するツールとして活用できることが分かってきた」と話す。同社は主に商品デザインを評価するAIシステムを提供してきたが、画像生成AIの進化を取り入れた新しいデザイン生

成のサービスを開発し出す。新商品、リニューアル商品の売上アップや、商品開発に携わる商

AIを活用して生成したい」と話している。